

心と こころ

薬物依存・リカバリー・ささえる

公益社団法人
宮城県精神保健福祉協会

薬物依存

〜切れ目のない支援を求めて〜

仙台保護観察所 統括保護観察官

正木 勉

薬物依存症に対するアプローチや考え方はここ10年の間に様々な変化が生じています。

S M A R P Pを代表としたプログラムが全国各地の精神保健福祉センターや医療機関等で行われるようになりました。

「ダメ、ゼッタイ」に象徴される啓発活動は大切ですが、それ以上に「ダメ、ゼッタイ」ではない回復への支援にもスポットが当たるようになりました。

とはいえ、芸能人が薬物使用で逮捕されるとメディアでは「人間失格」と言わんばかりに排除するような報道がなされ、同じ依存症で苦しんでいる当事者や家族が絶望し、ますます孤立を深め、どこにも救いを求められなくなっているのも事実です。

考えてみると薬物依存者の初使用のきっかけは身近にいる薬物経験者から誘われることがほとんどです。単純に考えると誘う側の薬物依存者が回復し

て薬を止め続けられれば、自動的に誘われる人は少なくなり、全体的な数が減ることになります。

では薬物を止め続けるために刑罰が有効かと言えば、覚せい剤取締法の罪で刑務所に入った人が刑務所を出てから5年間の間にその半分が刑務所に戻っているという統計を見れば、あまり役に立っていないのは明らかです。

私自身もかつて薬物使用を繰り返している薬物依存者を前にして「また、使用したのか、刑務所に行つて懲りてもらわうしかない」とついつい考えてしまっていました。

薬物依存症は刑務所で懲りて回復する病気ではなく、治療が必要なのです。

現在、刑務所では保護観察や地域移行を意識したプログラムが行われ、そのバトンを受けた保護観察所は実社会という誘惑のある中で刑務所のプログラムと一貫性・連続性を担保しながらプログラムを実施しています。そして最終的には保護観察終了後にも地域の

社会資源を生かして保健・医療・福祉へとシームレスなつながりをしていくこととなります。

薬物依存症は病気であるにも関わらず、少し厄介な感情に襲われます。

認知症の患者に「忘れるな」と本人を責める支援者はいないのに、薬物だけは症状であるスリップ（再使用）が起きた時になぜそれを非難してしまうのか。

薬物依存症は残念ながら自分の意志ではどうにもなりません。それなのに再使用してしまう薬物依存者は決まって「意志を強く持つ」という決意を口にし、支援者を含めた周りの人もついつい「意思を強く持ちなさい」と言っています。

薬物依存は犯罪行為ではありませんが、薬物依存の一症状でもあるため、支援する関係団体や機関は、薬物依存者が薬物依存という精神症状に苦しむ一人の地域生活者であることを改めて認識し、偏見や先入観を排して薬物依存からの回復と社会復帰を支援する必要があります。そのために関係する機関が相互に連携し、それぞれが有する責任、機能又は役割に応じた支援を、切れ目なく実施することが大切です。

今、宮城県の関係・支援団体は東京でもなく、大阪でもなく、宮城だからこそできる支援、そして薬物依存者が孤立せず「宮城で生活していたからこそ回

復できた」と言ってもらえるような取組「宮城モデル」を摸索しています。

この取り組みの先には「つまづいても誰もがやり直すチャンスあふれる宮城県」になってほしいという願いがあります。



仙台リカバリーカード

このカードは関係・支援団体が作成し、「リカバリーカード」と呼んでいるものです。依存者が逮捕されるまで薬物を使用し続けるのではなく、その前に相談してほしいという思いで作成しました。もし、目にしたら手に取っててください。

秘密は守ります 匿名で話せます 自分のご家族・友人どなたでもパートナー職場の人...

話してみませんか?

仙台タルク 022-261-5341 薬物依存症リハビリセンター
NA(ナルコティクスアノニマス) 090-1377-1049 NA東北エリア ミーティング案内
アロー萌木 022-716-5575 女性。アディクション全般への回復支援
仙台家族会 090-3642-9516 家族のための自助グループ
仙台市精神保健福祉総合センター (はあとぼーと) 022-265-2191 仙台市の方
宮城県精神保健福祉センター 0229-23-1603 担当:相談診療・デイケア班 仙台市以外の方
薬物相談電話 022-227-5700 東北厚生局麻薬取締部

監修:仙台保護観察所 022-221-1451
社会内処遇多機関連携モデル活動推進事業(伊達リカバリー研究会)助成

仕事しなきゃ やめたい 困ってる 捕まるの?

自分の、だれかの、薬物やその周辺のこと...

話してみませんか?
秘密は守ります

死にたい だれにも言えない 子供いるのに 支払い滞納 苦しい

刑事施設での薬物依存を抱えている人への対応

宮城刑務所教育専門官

柿崎 真澄

1 薬物依存離脱指導について

覚醒剤、コカインや大麻など違法薬物を使用して受刑している人（以下「受刑者」とする。）に、刑務所では「薬物依存離脱指導」という教育的プログラムのを行っています。ただ、このプログラムは毎日開講している訳ではありません。

受刑者は、平日のほとんどの時間を、自分の居室から刑務所内の工場に通勤して、指定された作業に就いています。刑務所の中では、それぞれの工場で、靴、衣類、家具、印刷物、金属加工などの製品を製作や、敷地内の清掃作業、食事作りなど、様々な作業に従事しています。

薬物依存離脱指導は、プログラムの期間や内容にもよりますが、週1回の頻度で実施しています。受講する人は、プログラムの開講期間には、一時的に作業をせず、教室での受講が義務付けられるシステムとなります。

2 宮城刑務所での実践について

宮城刑務所は、犯罪傾向が進んだ受刑者を収容している施設であるため、薬物依存離脱指導も、反社会的な集団に属した経験のある人や、受刑を繰り返している人が対象となります。プログラム前に実施する面接では、薬物使用により家族や社会での信頼を失っている状況でも、それを自分の問題だと捉えられない人、自己使用しながら薬物を売買することで生活していた人、薬物の使用をやめられずに苦しんでいる人など、様々な人がおり、受刑したこと自体が薬物をやめる理由にならない現実を目の当たりにしています。

そのため、当所では複数のプログラムを準備しています。薬物使用に至った理由を振り返り、社会内資源を学ぶ必修プログラム、グループワークでワークブックを勉強することを通し、薬物を再使用しない方法を学ぶ専門プログラム、薬物依存症の当事者を交えて一

緒にミーティングの体験をする選択プログラム、これらのプログラムを、受講者の動機付けによりそれらを組み合わせることで実施しています。

3 当事者が参加する意味について

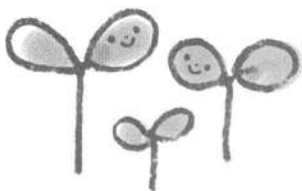
専門プログラム及び選択プログラムには、当事者として仙台ダルクのスタッフらがプログラムに参加しています。薬物依存症の当事者が参加することにより、受講者たちは、薬物依存症の回復途中でどのような体験をするのか学ぶことができます。受講者は「いつやめたいと思えたのか」、「本当にやめられるのか」と言う率直な疑問を投げ掛けながらも、次第に「薬物を使っている方がうまく生活できていた気がする。」と自分の話を始める様子が見られます。スタッフらと関わることで、薬物依存症は回復できる病気であるというリカバリーモデルを目の当たりにできるとともに、受講者同士で正直になれる機会になっています。

刑事施設での指導は、受講者に「回復のきっかけに気が付く場所」を支援することだと考えています。そのためには、私自身が、薬物依存症の回復者の方たちの体験に耳を傾け、薬物をやめ続ける過程を理解していくことの重要性を感じています。

4 これから

私が薬物依存離脱指導に携わるようになってから10年が経過しました。その間、指導の目標が、「断薬の決意を固めさせる」から「社会内での治療につなげさせる」に変わり、少しずつ治療ベースの支援に近づいている感覚があります。また、プログラムを通して見えてきた各受講者の課題を、社会内処遇でも共有できるよう保護観察所に引継ぐことになっています。

受刑者は、出所後、これまで抱えてきた家族、金銭、仕事などの諸問題に直面し、それらへの対応を優先してしまいがちです。そのため、支援機関や自助グループの情報を提供しても、すぐにつながらない現状もあります。その一方で、社会内において回復のための活動が必要であることを理解している手応えは感じていることから、彼らが薬物をやめたいという行動を起こしたとき、社会の中で息長く治療を受けられる環境が整えられてほしいと願っています。



ジョリーと僕とではんぶんじ

仙台ダルク

大木康平

18歳のころ。港のある町から彼女を車に乗せてバイパスを100km/h近く出していた。反対車線から来る車が何故か僕の車を指すようにパッシングするので、意味が分からず不安になった。そして何故だったんだろう、さらにアクセルを踏んだ。

法定速度80km/hオーバーとシートベルト着用義務違反。検察庁に呼ばれ、初心者講習を受けることになった。あの時、パッシングをしてくれた反対車線の車はその先で検問をやっているから飛ばすなよと教えてくれていたことに、気づいたのはしばらく経ってからのことだった。

田舎の教習所で免許を取ったので都会での初心者講習は正直、手間取った。カラーコーンに近づくギリギリでハンドルを切るの怖かったし、右折車線に入る前の安全地帯を後ろの車に気を使って進入し、ひどく注意された。たったそれだけのことで、自分には都会で

生きていく資格も、能力もないように思えた。何もかも忘れたかったんだと思う。

ロン毛のチャライお兄ちゃんが、近づいてきて、僕のGuns'n RosesのTシャツを褒めてくれ、アパートまで車で送っていつてくれると言う。ギターケースを持って来て、ウエスタンブーツの中からパケを出した。ガンズのベイシエンスを弾きながら、マリファナを勧められた。もともと家で1人でウイスキーは飲んでいたし、それから友達にハシシを持ってくるようになったので、ときどき彼女にも勧めようになった。

始めはただの遊びだった。女の子に声をかけるにもくすりの話、薬を持ってる女の子と遊ぶようになって初めてやったスピードは最高だったけど、それが覚せい剤だって知ったら、手を出してたかな？ きっといずれ手を出していたんだろう。覚醒剤を手に入れる

まではそれを探す為の生き方。手に入れたからは、捕まるなんてありえないと考えていたし、どう切らさないようにするのか？ そのためだけに生きていたような気がする。

どうしてこんななつちやつたんだろう？ 彼女も友達も去っていき、一人残された廃墟のような部屋でベトベトのスライムみたいになって、画面を見つめていた。2回目の逮捕で拘置所にいた時、母が死んだ。

もともと離脱症状で無感覚なのに、それすらもハルシオンで薄めた。

刑務所の教育でダルクメッセージに出会い、出所後、ダルクとNAに繋がった。薬を使っていなかった。苦しもうに泣いていたが、クスリは使っていなかった。

精神保健福祉みやぎ48号（平成29年発行）で、引きこもりの子にボーカロイドやYouTubeの話から扉が開いたという話を讀んだが、僕たちにとつてそれは薬物の話だ。

そして、回復の過程で人よりうまいものを食べたいと思ったり、風呂の順番を争ったりする。ひどい生き方は何も変わらない。自分と同じように薬が大好きな仲間が施設を飛び出し、すぐに刑務所へ行った。仲間が死んだことを聞かされた日の、富山の海の青さを忘れない。あんなふうに死にたくないと思えたし、僕もこんなふうに死ぬか

も知れないと考えると恐ろしくなった。ただ、今この瞬間を精一杯楽しもうと思えた。

刑務所にいないことなのか、クスリをつかってないことなのか、仲間の作る騎馬にのり、敵？ 仲間？ のハチマキを獲ることが、そのハチマキを掲げて砂浜に戻るとき、見ず知らずの水着ギャルが拍手してくれたことが、ひどく自由に感じられた。

NAの12ステップは生き方だ。そして、ダルクには、いつも仲間がいる。

最近ふと、支えるってことって支えられるってことなのかな？ と考えたりもした。この終わりかたは、多分、僕にとつては奇跡的なハッピーエンド。

苦しみは、分かち合うと半分、喜びは倍になる。名犬ジョリーっていう子供の頃、好きだったアニメのテーマソングのつづきみたい。ビスケットがいちまい、あつたら、あつたら……どれだけの孤独のなかに、取り残された過去の僕。早くここに来て、絶望を分けて。



弱きを見せるじよのどを強く

医療法人東北会 東北会病院

作業療法士 金 田 和 大

当院の薬物依存症治療プログラム D.o.t. は、旧せりがや病院で開発されたグループ療法「SMARTPP」を参考に、平成26年に開始しました。週1回90分のプログラムには、覚せい剤や処方薬、市販薬等との付き合い方で困難を感じた方（以下、当事者）が集まり、スタッフ進行のもとテキストを用いて自身の体験を振り返り、分かち合います。薬への欲求を「薬をやめた」という意思とは無関係に湧きあがってしまふもの」と捉え、(1)欲求が湧ききつかけを見つめる、(2)欲求が湧いた際の対処を皆で練習する、(3)生活の中で試した工夫・うまくいった経験を共有する等のテーマで話し合い、少しでも自分に合った薬になれるヒントを皆で探していきます。

一般的に、薬物依存症は「意思が弱くてだらしがない」「犯罪だから、反省させる必要がある」と捉えられることが多いかもしれませんが、正直に告白する

と、筆者自身もD.o.t. の開始前には、「どんな怖い人たちが集まるんだろう」と少し不安を感じていました。しかし、実際にD.o.t. が始まり当事者の語りに触れていくうちに、印象は変わっていききました。

「両価性」という概念を知ったことは、当事者の体験を理解する支えになりました。薬を「使いたい気持ち」「やめたい気持ち」の両方が同時に存在するたゆめ身動きがとれないと捉えることで、やめる気がない現われと思われがちな「使いたい」という発言は、むしろ、葛藤の一面面を正直に話してくれたということになります。同時に、まだ言葉にはなっていない「やめたい気持ち」はどんなものだろうと、思いが巡るようになりました。スタッフからやめる理由を押し付けるのではなく、本当はどんな生活を望んでいて、何を大事にしたいのか、焦らずに一緒に探すよう

なスタンスでいたいと思えるようになりました。

D.o.t. ではたぐさんの「使いたい気持ち」や「やめたい気持ち」を聞いてきました。ある方は「薬を使う・使わないよりも、シラフの時の生き方が課題なんだ」と語っていました。当事者が、人との関わりに不安を抱え、悩みごとを一人で抱えこまざるを得なくなっていることや、自責感に苦しみ、自分を信じられなくなっていることを知りました。こんなにも自分を責めて苦しんでいるのに、その辛さを誰にも話せなかったという経験を聞く度に胸が苦しくなり、同時に、グループで話をするのはどれほど勇気がいっただろうかと敬意の気持ちが湧いていました。

グループで経験を分かち合う中で、薬への欲求も含めて正直に語れるようになることでむしろ欲求が減って楽になった経験をされる方や、薬無しで生活していくことへの不安を抱えて苦しんでいるのは自分だけじゃないと知り、自分もこの社会にいていいんだと感じられた方もいらっしやるようです。

ある方の言葉が強く印象に残っています。

「昔は、困ったことがあれば何でも、薬で乗り越えようとしてきた。でも今は、困ったとか悲しいとか、ちゃんと

言えることが強さだって思うようになった。自分の経験を語ることが仲間の役に立つこともあるし、私も仲間になんかさせてもらったんです」

勇気をもって自分の経験を共有することで、過去に起こったことは変わらなくても、過去のもつ意味合いが変わっていく。これは、大きな希望だと感じました。また、当事者同士は、自分達のことを仲間と呼び合うことがありません。筆者は、ついわかったような顔をしてギリギリまで助けを求められない自分自身に思いを巡らせ、弱さを見せられる仲間という繋がりを羨ましく感じました。

依存症の治療では、当事者を反省させる関わりではなく、回復を信じて応援する関わりが求められています。どうしたら安心して語れる場所や繋がりを、当事者と一緒に作っていきけるか、これからも考えていきたいと思えます。



相 談 機 関 一 覧

●宮城県保健福祉事務所

名 称	住 所	電話番号
仙南保健福祉事務所 (母子・障害班)	989-1243 柴田郡大河原町字南129-1	0224-53-3132
仙台保健福祉事務所 (母子・障害第二班)	985-0003 塩竈市北浜4-8-15	022-365-3153
仙台保健福祉事務所 岩沼支所 (地域保健班)	989-2432 岩沼市中央3-1-18	0223-22-2188
仙台保健福祉事務所 黒川支所 (地域保健班)	981-3304 富谷市ひより台2-42-2	022-358-1111 (代)
北部保健福祉事務所 (母子・障害第二班)	989-6117 大崎市古川旭4-1-1	0229-87-8011
北部保健福祉事務所 栗原地域事務所 (母子・障害班)	987-2251 栗原市築館藤木5-1	0228-22-2118
東部保健福祉事務所 (母子・障害班)	986-0850 石巻市あゆみ野5-7	0225-95-1431
東部保健福祉事務所 登米地域事務所 (母子・障害班)	987-0511 登米市迫町佐沼字西佐沼150-5	0220-22-6118
気仙沼保健福祉事務所 (母子・障害班)	988-0066 気仙沼市東新城3-3-3	0226-21-1356

●仙台市各区保健福祉センター (問い合わせ先 保健福祉センター：障害高齢課 総合支所：保健福祉課)

名 称	住 所	電話番号
青葉区保健福祉センター	980-8701 仙台市青葉区上杉1-5-1	022-225-7211 (代)
青葉区宮城総合支所	989-3125 仙台市青葉区下愛子字観音堂5	022-392-2111 (代)
宮城野区保健福祉センター	983-8601 仙台市宮城野区五輪2-12-35	022-291-2111 (代)
若林区保健福祉センター	984-8601 仙台市若林区保春院前丁3-1	022-282-1111 (代)
太白区保健福祉センター	982-8601 仙台市太白区長町南3-1-15	022-247-1111 (代)
太白区秋保総合支所	982-0243 仙台市太白区秋保町長袋字大原45-1	022-399-2111 (代)
泉区保健福祉センター	981-3189 仙台市泉区泉中央2-1-1	022-372-3111 (代)

●精神保健福祉センター

名 称	住 所	電話番号
宮城県精神保健福祉センター	989-6117 大崎市古川旭5-7-20	0229-23-0021 (代)
仙台市精神保健福祉総合センター (はあとぽーと仙台)	980-0845 仙台市青葉区荒巻字三居沢1-6	022-265-2191 (代)



心のケアセンター
Miyagi Disaster Mental Health Care Center

◆基幹センター □地域支援課 □企画研究課 □総務課

〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目18-21 タケダ仙台ビル3F
TEL: 022-263-6615 FAX: 022-263-6750

□石巻地域センター

〒986-0850 石巻市あゆみ野5-7 宮城県石巻合同庁舎5F
TEL: 0225-98-6625 FAX: 0225-98-6628

□気仙沼地域センター

〒988-0066 気仙沼市東新城3-3-3 宮城県気仙沼保健福祉事務所2F
TEL: 0226-23-7337 FAX: 0226-25-9881

協会事務局 〒989-6117 宮城県大崎市古川旭5丁目7-20 宮城県精神保健福祉センター内
電 話：0229-23-0021(代)
FAX：0229-23-0388
E-mail: miyagi.sehofuku.kyokai@r7.dion.ne.jp